~互助を核とする『ささえ合い活動』のこれからを考える~ **皆様のご意見を!**

以下は一つの考えを提示させていただいたものです。『ささえ合い活動』の在り方は多様な考え方が あると思います。以下を参考にしていただき皆様の活発な意見交換と積極的な取組みをお願いします。

◆繋ぐためのネットワークづくり

※☆印は取組みの方向(案)

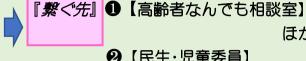
ほか

[(I) 繋ぐためのネットワークを創ろう!]

『我が困り ごと』

↑・自ら相談窓□へ繋ぐ人

↑・自ら声を上げられない人



② 【民牛·児童委員】

(各自治会役員・ブロック班長/当番)

☆継続的な見守り活動※

(希望者に玄関先訪問、電話等で 見守るボランティア組織の創設と

- ☆緩やかな組織的見守り活動 →・住民に一番近い組織である自治会などが担う ことが望ましい。専門窓口へ繋ぐことが目的。
 - **⇒・**ボランティアのフレンドネットや見守り隊など
 - ☆※CSW 的専門ボランティアの育成・組織化 (引きこもり等の難しい見守りに対応)

◆自立/頑健(健康)状態の高齢者およびフレイル(虚弱)な状態の高齢者

ᄼᆍ什事

[(II) 既に多くの健康増進諸活動があるが、もっと増やそう!] [特に 65 歳以上の高齢者]

自己実現と 健康寿命を 伸ばす

フレイル

戻す

一運動

☎

↑交流(趣味、親睦等) ↑社会貢献※ →予防(認知、介護等)

~☆更なる開発継続~

(虚弱)状態 上図の健康増進諸活動をフレイル状態に から健康へある人々にも参加可能な方式を追加する

※各種地域活動、ボランティアなど

☆フレイル健診の導入・活用など ☆すこやかアドバイザー(仮称) 制度の導入(健診結果に基づき 本人の希望と効果に合わせて 適切な諸活動を斡旋するもの)

☆誰もが参加し易いように諸活動の **照会・検索システム**の導入など

☆公共施設利用団体の活動状況を 確認し施設利用の効率化を図る

◆要介護/障害の状態の高齢者 「(Ⅲ)*自らの目でサービス内容を見よう!*】

主に要支援 1、2を対象 とする地域 支援事業

①訪問型サービス(ホームヘルパーの 身体・牛活介護(食事や掃除等介助)) ②通所サービス(食事提供などのデイ

サービスや機能訓練、レクなど提供)

☆ボランティア団体などが保険とは別に 会食、体操、レク、生活支援サービス、 サロン、暮らしサポートなどの低廉な サービス提供(**☆**この拡充が必須)。

要介護1~5 の介護保険を 利用する場合

- ↑これらは利用者の介護レベルに合わせ 専門職の介護要員による多様なサービス があるが、主に①在宅サービス、②施設 サービスなどがある。
- 今①在宅は勿論、施設への☆地域住民の 支援体制が整えられる事が望ましい。 回我々は繋がれた後の状況を確認しつつ ☆利用者・家族、従事者、行政への支援

- [『ささえ合い活動』の目的の一つ] ☆諸団体が多様な低廉サービスを を開発・提供すると保険利用を せずに済み地域支援事業者の市 の負担を軽減する。これは当該 活動の主な目的の一つです。
- ☆ケアマネ等の介護従事者の確保 とそのための待遇改善等の施策。
- ☆ケアプラン作成講座などの啓発。

[当該活動として支援できる分野] ☆本人(利用者)のために、

回話し相手、回イベントの手伝い ☆介護者のために、

日リフレッシュ支援、目徘徊探索 支援、国家族·交流·学習会支援 ☆介護従事者のために、

回働き易い環境·待遇の確保など

【文責; 広報/Y. A】

人生 100 年時代を共に生きる!

~今、求められる地域での「ささえ合い」!~



見渡せば高齢者ばかり。<mark>我が国は 2007 年に超高齢化社会に突入</mark>しました。今では 65 歳以上の高齢者は 約 3600 万人(人口比 28, 4%)に上り、2025 年には団塊世代がこぞって後期高齢者となり、100 歳以上の高 齢者が 10 万人に達する日も間近です。このことは、<mark>高齢者医療、福祉、介護等では従来の制度・仕組み</mark> で対応しきれないことを語っており、私たちもその備えと対応を迫られていることはご存じの通りです。

私たちの住む「我孫子北地区」(布施・久寺家・つくし野・並木・我孫子・根戸)は、高度経済成長期以降、 大都市へ人口集中が進んだ 1970 年代に、この地に移転して来られた方々を中心に発展してきました。 事実、我孫子市への人口流入は、1970年から約10年間がピークで毎年約10,000人が転入しています。

このグラフは、<mark>我孫子北地区住民の年齢構成</mark>をみたものです。(2018 年 4 月:約 31,600 人の状況)

このグラフを読み解すと、

第1母集団(約10,400人)は、都心への通勤圏にあるこの地 現役を退かれ、その老後の生活スタイルは様々です。

第2母集団(約12,700人)は、第1母集団のご子息等を中心 に今が働き盛りの方々から退職時期を間近に控えている方 まで含まれます。地域を支える側として期待されている方々 です。第3母集団(約8,500人)は、これからの活躍が期待さ

れる若い世代ですが、その割合は生産年齢人口の減少と同様に低下傾向にあります。

我孫子市**社会福祉協議会が実施した 2016 年度調査**によると、我孫子市での生活が 31 年以上の住民が約 58%と定住化が進む一方で、独居または夫婦のみのご家庭が増え続け、約56%と過半数を超えています。 小家族化と高年齢化の進行により、日常生活での不自由や制約は日々増しているものと懸念されます。 これらから**地域が抱える重要な福祉課題**は、(1)高齢者や周囲の手助けを必要としている方々が、これ からも健康で自立した生活ができるよう、如何に支援できるか?(2)現役世代の方々が、どのような形 で「ささえ合い」活動に参加できるか…等々を一緒に考え、「ささえ合い」を実行に移すことでしょう! 今、お住いの団地、自治会、町会など身近に、ご家族のケア・介護、子育て、買い物などでご不自由さ れている方はおられませんか? 老々介護、独居・孤立、歩行難、認知・判断力の低下などで不安な毎日 を過ごされている方を見かけませんか?

「身の回りの問題」には、個人やご家庭内だけでは対処できないことも多くあります。支援して欲しく ても、それを声に出せない方も多くおられます。「自助」だけで頑張り続けるには限界があり、「公助」 に大きな期待を寄せるのも今や非現実的です。それ故、「地域のつながり」、「ささえ合い」が、今、私 たちは強く求められているのです。

これはあなたご自身、ご家族、隣人が直面する現実の問題です。遠い他国のことではありません。ご縁 があって我孫子北地区で生活する私たちです。地縁や血縁を越え、日常生活での困りごとは、地域で 見守り、ささえ合って、いつまでも安心して住み続けられるまちづくりを目指したいと思います。

貴方も「ささえ合い」活動に参加しませんか!

我孫子 北地区 年齢別人口分布

(第3母集団)

当協議会の委員の 80%超は、**ボランティア活動**には初めての参加ですが、多くの人と出会い、仲間になり 交流の輪が広がり笑顔で活動されています。一人でも多くの方が、**北地区社会福祉協議会の活動に参加** して戴けますよう、お待ちしています。**お問い合わせ先: 我孫子北地区 社会福祉協議会 04-7165-3434**

を視野に入れて置く必要が有ります。